

テーマ：景気動向指数（2015年5月）の予測

発表日：2015年6月29日（月）

～基調判断が「足踏み」に下方修正される見込み～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

○C I一致指数は再び悪化。停滞感強まる

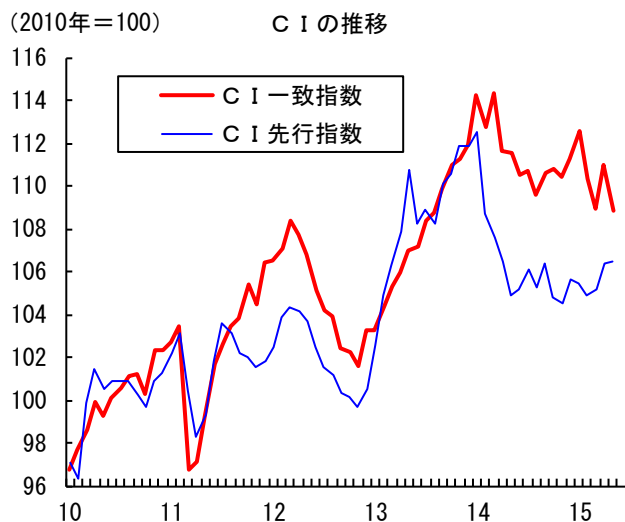
内閣府から7月6日に公表される2015年5月の景気動向指数では、C I一致指数を前月差▲2.2ポイントと予想する¹。1月に同+1.3ポイントと上昇した後、2月が▲2.3ポイント、3月が▲1.4ポイント、4月が+2.1ポイント、5月が▲2.2ポイント（予想）という流れである。月々の振れが大きいのが、均してみれば足踏み状態にあると判断される。5月は採用系列で全般的に落ち込みが見られ、有効求人倍率を除いたすべての系列がマイナス寄与になったとみられる。なかでも、卸売業の悪化が大きかったほか、5月の生産悪化を反映して鉱工業生産指数、生産財出荷指数、耐久消費財出荷指数といった生産関連の落ち込みが目立つ。

足元においてC I一致指数が停滞気味に推移していることは否めない。本日公表された鉱工業生産でも4-6月期が前期比で▲1%台後半の減産になる可能性が高いことが示されるなど、足元では冴えない経済指標が目立っている。原油安効果の顕在化により15年入り以降は景気回復ペースが加速することが期待されているのだが、逆に景気は足踏み状態になっており、完全に期待外れだ。

また、5月のC I先行指数は前月差+0.2ポイントと予想する。3月（前月差+0.3ポイント）、4月（+1.2ポイント）に続いて、小幅ながら3ヶ月連続の上昇を見込む。先行C Iが持ち直し気味に推移していることは、今後の改善に向けての明るい兆しと言えるかもしれない。

○基調判断が「足踏み」に下方修正

内閣府によるC I一致指数の基調判断は「足踏み」に下方修正される見込みである。これまで「改善」が5ヶ月間続いていたが、遂に下方修正である。「3か月後方移動平均の符号が変化し、1か月、2か月、または3か月の累積で1標準偏差分以上逆方向に振れた場合」という下方修正の基準を満たしてしまうためだ。ちなみに、「足踏み」の定義は「景気拡張の動きが足踏み状態になっている可能性が高いことを示す」である。足元の景気が停滞していることが改めて意識されることになるだろう。



(出所)内閣府「景気動向指数」

(注)直近の2015年5月は第一生命経済研究所による予測値

¹ 現時点で未公表の所定外労働時間（一致系列）、中小企業出荷指数（一致系列）、住宅着工床面積（先行系列）については筆者が仮置きして計算した。